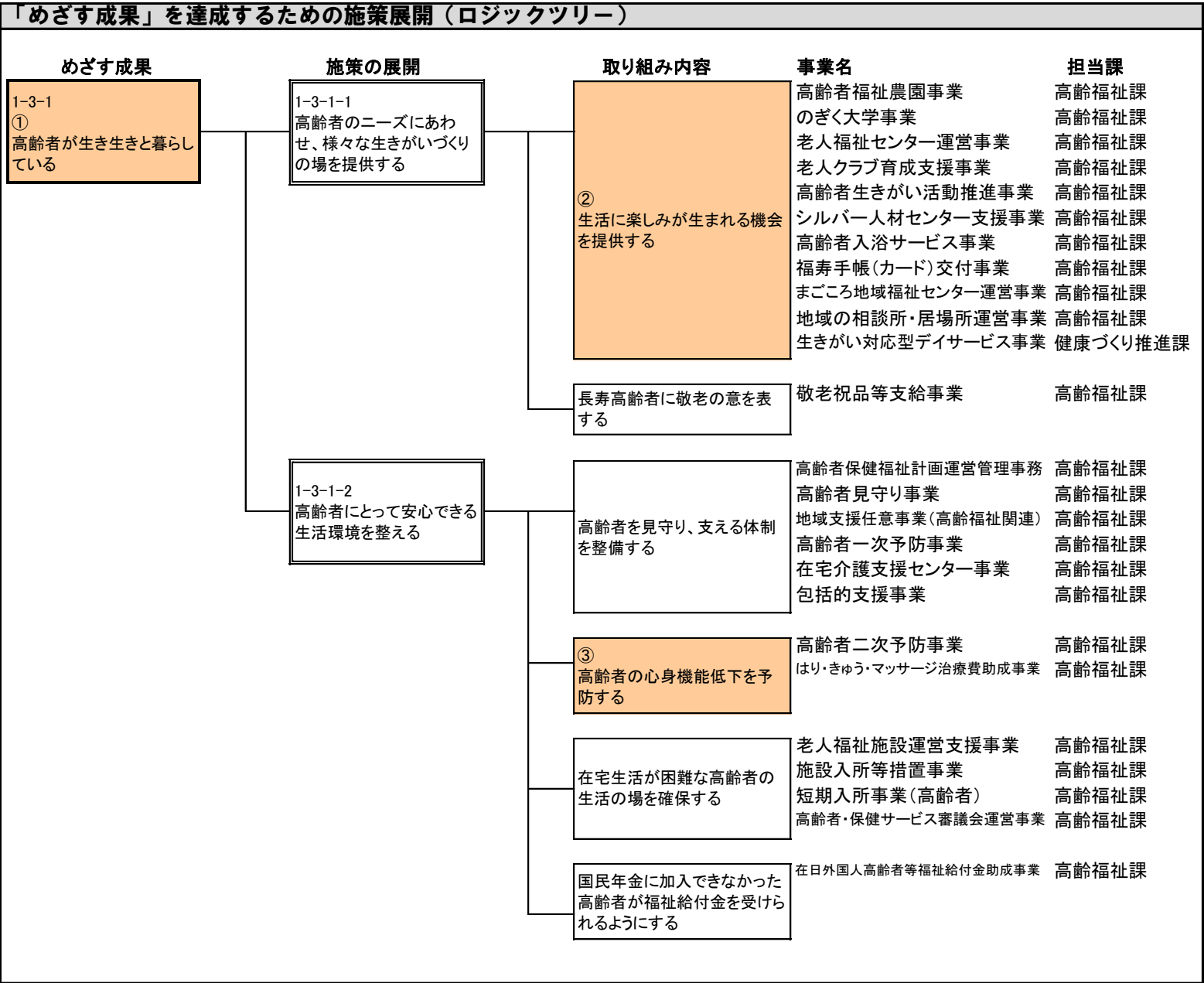


平成27年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
1-3-1 高齢者が生き生きと暮らしている		
総合計画体系	健康領域・基本目標	人の健康・一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち
	個別目標	高齢者や障がい者への支援を充実する
	めざす成果	高齢者が生き生きと暮らしている
		高齢者が暮らしやすい生活環境の中で、生きがいをもって生活しています。



成果を計る主な指標	指標の名称	前期基本計画			後期基本計画		
		計画策定時(H20)	最終目標値(H25)	実績値(H25)	実績値(H26)	中間目標値(H28)	最終目標値(H30)
	① 高齢者が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合	47.6%	52.0%	56.6%		56.0%	57.0%
	② シルバー人材センターの会員数	688人	1,300人	901人	891人	1,020人	1,090人
	③ 介護予防講座受講者数			424人	495人	457人	536人

所 管 部	健康福祉部	
平成26年度の取り組み内容	【高齢者のニーズにあわせ、様々な生きがいづくりの場を提供する】 ・高齢の方の生きがいづくり、居場所として、のぎく大学（15講座、発表会）の開催やバス借上げ助成（50件1,334人利用）の実施、老人福祉センター・ぷらっと中央林間（延べ5,954人の利用）の運営などを行いました。また、シルバー人材センターの活動支援を通じて、高齢の方の社会参加や生きがいづくりの場を提供しました。 【高齢者にとって安心できる生活環境を整える】 ・第6期高齢者保健福祉計画を策定しました。 ・高齢の方が安心して生活できる環境を整えるため、緊急通報システムの対象要件の拡充及び利用料金の引き下げを実施したほか、新たに2社と見守り協定を締結しました。 ・二次予防事業対象者（要支援・要介護となる可能性が高い方）を対象に、通所型介護予防事業を実施し、平成26年度は前年度比約17%増の495の方が受講しました。また、二次予防事業対象者のうち、閉じこもり傾向を有する方等に対して保健師等の専門職が個別訪問し、介護予防を行う訪問型介護予防事業のモデル地区を鶴間・南林間地区に拡大しました。 ・介護予防の普及啓発として、公園に設置した健康遊具を活用した公園デビュー体験会を新たに開催し、介護予防の推進を図りました。	
構成事業に対する考え方（事業の量及び実施手法）	・閉じこもりを防止し、社会性を育み、介護予防を推進するため、既にある様々な居場所に加え、新たな居場所、機会の創出に取り組みます。 ・独居高齢者や高齢者世帯の方が安心して、健やかな生活を送ることができるよう、配食サービスや緊急通報システム、地域包括支援センターの運営、見守り協定の締結、民生委員児童委員による見守り等を重層的に実施し、見守り体制の強化を図ります。また、緊急時には声掛け訪問調査結果を活用し、様々な組織と連携し、迅速な対応を図ります。 ・二次予防事業対象者に対する取り組みとして、通所型介護予防事業については、会場数や講座内容等を充実させ、訪問型介護予防事業については、対象地区を拡大し、全市的な展開を図ります。 ・介護予防の普及啓発として、新たに各公園に設置される健康遊具を活用した介護予防セミナーを随時実施し、生活の身近なところで行える介護予防を推進します。	
今後の展開方針		注）例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。
新規事業の立案		（該当する事務事業）
既存事業の拡充		・「ぷらっと」の増設を行います。 ・介護保険法改正に対応するため、在宅医療・介護の連携推進、認知症施策、総合事業、日常生活支援体制整備、地域ケア会議等を実施します。 ・訪問型介護予防事業を全市的に展開します。 （該当する事務事業） ・地域の相談所・居場所運営事業 ・包括的支援事業 ・高齢者二次予防事業
事業の廃止・縮減		平成26年度に第6期高齢者保健福祉計画の策定が完了したため縮減します。 （該当する事務事業） 高齢者保健福祉計画運営管理事務
事業の効率化		（該当する事務事業）
その他見直し		（該当する事務事業）